

序文

本書は、薬学教育モデル・コアカリキュラム平成25年度改訂版のB「薬学と社会」のうち、「社会保障制度と医療経済」「地域における薬局と薬剤師」に掲げられる到達目標を中心に取り上げ、6年制薬学生が卒業時点でもつべき10の資質のうち、特に「チーム医療への参画」「地域の保健・医療における実践的能力」を育むための基礎的あるいは応用的な知識を習得できるように組み立てた。

第1章では、社会保障制度と医療経済を取り上げ、限りある医療資源を効果的かつ効率的に利用するという視点をもつことの重要性を強調した。第2章では、多職種連携協働についてその必要性和チーム医療の重要性を、第3章では、感染制御、栄養サポート、緩和ケアなど各種の医療チームを具体的に取り上げ、それぞれのチームにおける薬剤師の役割とそれを果たすために必要な知識・スキルについて概説した。第4章では、今後さらに重要性が増す地域医療・在宅医療・地域保健における薬剤師の役割と薬剤師に必要な知識・スキル、災害時や国際貢献（海外支援）での薬剤師の活動を解説した。いずれの単元も現在、それぞれの領域で指導的役割を果たしている薬剤師や医師の皆様から執筆いただくことができ、充実した内容となったと自負している。

超高齢社会を迎え、日本の医療は大きく方向転換を迫られており、現在の医療保険制度を維持するためには、予防を含めた地域包括ケアの構築が重要な鍵となる。薬剤師は地域包括ケアの枠組みの中で、医療だけでなく介護にもかわり、さらには保健・予防といった領域でもその専門性を発揮することが求められている。

本書は、これまでの薬学領域の教科書では、取り上げられる機会が少なかった社会保障制度や地域活動、チーム医療活動などを1冊でまとめて学習できるテキストである。学生はもちろん、既卒の薬剤師でこれから在宅医療や地域保健に取り組もうとされている方々の入門書としても役立てていただきたい。

おわりに、ご多忙の中、本書の執筆にご尽力いただいた執筆者の皆様、詳細にご指導いただいたゲスト編集者の諏訪の杜病院院長・武居光雄先生およびファルメディコ株式会社代表取締役社長・狭間研至先生、様々な難題に果敢に取り組んでいただいた中山書店編集部・木村純子さんおよび企画室・桜井均さんに心からお礼を申し上げます。

2017年8月

望月眞弓

CONTENTS

序章 医療と薬剤師

佐々木忠徳, 小林麻美

2

1 薬剤師による情報提供と指導義務	2	3 医薬品の適正使用	4
1.1 薬剤師法第 25 条の 2 の変更が示すこと	2	4 薬剤師への期待と課題	5
1.2 薬剤師に求められる高い専門性	3	4.1 地域での役割	5
2 薬剤師の役割	3	4.2 病院での役割	5
		5 おわりに	5

第 1 章 社会保障制度と医療経済

1 社会保障制度

武藤正樹

8

1 日本の社会保障制度の枠組みと特徴	8	5 地域包括ケアシステム	13
1.1 保険とは何か	8	5.1 地域包括ケアシステムが目指すもの	13
1.2 保険の種類	9	5.2 地域包括ケアシステムの 5 つの構成要素	13
1.3 社会保険の特徴	9	5.3 地域包括ケアシステムを支えるコンセプト	14
1.4 社会保障の財源	9	5.4 地域包括ケアシステムを構築する機関, 会議体	14
2 医療保険制度	9	6 諸外国の制度	15
3 後期高齢者医療制度	10	6.1 各国の社会保障制度の財源の違い	15
3.1 後期高齢者医療制度の背景と財源	10	6.2 各国の医療提供体制の違い	15
3.2 後期高齢者医療制度の診療報酬制度	10	6.3 社会保険方式をとる国々での差違: 日本, フランス, ドイツ, オランダ	16
4 介護保険制度	11	7 おわりに	17
4.1 介護保険制度とは何か	11		
4.2 介護認定までの流れ	11		
4.3 介護サービスの主な種類: 施設サービスと居宅サービス	12		

2 地域の保健, 医療, 福祉において活用可能な社会資源

武藤正樹

18

1 地域包括ケアシステムにおける医療・介護・福祉の主な人材	18	1.5 介護支援専門員 (ケアマネジャー)	21
1.1 医師	18	1.6 社会福祉士	21
1.2 看護師	19	1.7 介護福祉士	22
1.3 薬剤師	19	2 地域包括ケアシステム構築と市区町村の役割	22
1.4 セラピスト	20	2.1 市区町村における担当課を決める	22

2.2 在宅医療・介護連携推進協議会を設置する	22	2.3 推進協議会での具体的な取り組み	23
----------------------------------	----	------------------------------	----

③ 医療経済的視点の重要性

3-1 国民医療費の動向	田倉智之	26
--------------	------	----

1 国民医療費と経済基調の動向	26	2 疾患領域別医療費と診療報酬単価	27
1.1 国民医療費の伸び	26	3 医療関連材料と医療技術料	29
1.2 国民医療費の財源	27	4 社会経済と国民医療費の調和	30

3-2 薬価基準制度と後発医薬品の役割	柿原浩明, 田村正興, 和久津尚彦	33
---------------------	-------------------	----

1 薬価基準制度とは	33	3 薬価算定の基本的ルール	34
2 薬価基準への収載	33	3.1 新医薬品の薬価算定	34
2.1 収載基準	33	3.2 後発医薬品の薬価算定	35
2.2 収載手続き	33	3.3 薬価改定	36
2.3 収載方式	34	4 後発医薬品の役割	36

3-3 薬物治療の経済評価の重要性と基本的な評価手法	柿原浩明, 田村正興, 和久津尚彦	37
----------------------------	-------------------	----

1 医療技術評価の目的	37	3 医療技術評価の問題点	40
2 医療技術評価の4つの方法	37	3.1 医療技術評価の問題点：その1	40
2.1 HTAの種類	38	3.2 医療技術評価の問題点：その2	40
2.2 分析を行う際の注意点	39		

第2章 多職種連携協働と薬剤師

① 保健, 医療, 福祉, 介護における多職種協働の必要性とチーム医療	武居光雄	44
-------------------------------------	------	----

1 多職種連携とは	44	2.2 チーム医療の推進：アプローチ方法としての チームモデル	46
2 チーム医療とは	45	3 地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム における薬剤師の位置づけ	47
2.1 チーム医療を成功させる鍵：薬剤師の役割	45		

② チーム医療における薬剤師の役割	安東哲也	49
-------------------	------	----

1 薬剤師に求められる役割の変遷	49	4 今後, 薬剤師の専門性が求められる領域	51
2 病院での多職種連携と薬剤師の役割	50	4.1 在宅医療, 救命救急領域における役割	51
3 薬局・地域での連携と薬剤師の役割	50	5 おわりに	52

第3章 病院でのチーム医療と薬剤師の役割

① 病院における各種医療チーム

1-1 感染制御チーム

木村利美 54

- | | | | |
|---|----|---|----|
| 1 感染制御チーム (ICT) と抗菌薬適正使用支援チーム (AST) | 54 | 3 抗菌薬適正使用 (antimicrobial stewardship) | 57 |
| 2 診療報酬上の ICT 業務内容と薬剤師の役割 | 55 | 4 国家プロジェクトとしての ICT の位置づけ | 58 |
| 2.1 診療報酬上の ICT 業務内容 | 56 | 5 専門薬剤師制度 | 60 |
| 2.2 薬剤師の役割 | 57 | | |

1-2 栄養サポートチーム

樋島 学 61

- | | | | |
|-------------------------------|----|---------------------------------|----|
| 1 医療機関に入院している患者の栄養状態の現状 | 61 | 4 NST の業務内容 | 63 |
| 2 NST の歴史 | 62 | 4.1 NST のメンバー構成 | 63 |
| 3 NST の役割 | 62 | 4.2 栄養不良患者の抽出 | 64 |
| 3.1 患者にとって最良な栄養管理の確立 | 62 | 4.3 NST カンファレンスと NST ラウンド | 64 |
| 3.2 栄養障害患者の早期発見 | 62 | 4.4 他の医療チームとの連携 | 67 |
| 3.3 病院スタッフの栄養教育 | 63 | 5 NST における薬剤師の役割 | 67 |
| | | 6 NST の今後の展望 | 68 |

1-3(a) 緩和ケアチーム：概論

片山志郎 69

- | | | | |
|-----------------|----|-------------------|----|
| 1 はじめに | 69 | 3.1 ラウンド | 72 |
| 2 PCT の構成 | 69 | 3.2 カンファレンス | 74 |
| 3 PCT の活動 | 72 | 4 おわりに | 74 |

1-3(b) 緩和ケアチーム：昭和大学藤が丘病院での取り組み

須永登美子 75

- | | | | |
|--------------------|----|--------------------|----|
| 1 緩和ケアチームの構成 | 75 | 3 PCT 薬剤師の役割 | 76 |
| 2 PCT の役割 | 75 | 4 今後の課題 | 77 |

1-4(a) 褥瘡対策チーム：薬剤師に求められる役割

古田勝経 78

- | | | | |
|-----------------------------|----|-------------------------------|----|
| 1 はじめに | 78 | 2.2 褥瘡対策チームで薬剤師に期待される役割 | 78 |
| 2 褥瘡対策チームの活動内容 | 78 | 2.3 外用剤治療での薬剤師の介入 | 79 |
| 2.1 褥瘡対策チームの構成と各職種の役割 | 78 | | |

1-4(b) 褥瘡対策チーム：局所治療における薬剤師のかかわり

古田勝経 80

- | | | | |
|------------------|----|------------------|----|
| 1 はじめに | 80 | 2.2 褥瘡の評価 | 81 |
| 2 褥瘡の病態と薬剤 | 80 | 2.3 外用剤の選択 | 81 |
| 2.1 褥瘡の病態 | 80 | 3 外用剤の基剤特性 | 81 |

3.1 基剤の特性	82		85
3.2 ブレンド軟膏の有用性	83	4.2 創固定が必要な病態	85
4 創内への薬剤滞留と創固定	85	5 展望：薬剤師の介入によるコスト削減と	
4.1 薬剤の創内滞留を維持する創環境の形成		治療期間の短縮	88

1-5 移植チーム

杉山健太郎 90

1 はじめに	90	処方設計の提案, 副作用のモニタリング	
2 腎移植の歴史と免疫抑制薬の開発	90		92
3 免疫抑制薬の副作用	91	5 免疫抑制薬の感受性試験における臨床的な	
4 移植チームにおける薬剤師の役割	92	意義	93
4.1 患者への服薬指導	92	6 レシピエント移植コーディネーターとしての	
4.2 血中濃度モニタリングによる投与量の設定,		役割	94

1-6 救急チーム

名倉弘哲 95

1 救急チームにおける薬剤師の必要性	95	3.3 薬剤師が心得ておくべき救急医療の特徴	
2 日本の救急システム	96		98
3 救急チームにおける薬剤師	96	3.4 救急チームにおける薬剤師の役割	98
3.1 救急チームの構成	96	4 まとめ	100
3.2 薬剤師の具体的な活動内容	97		

1-7 医師との協働：プロトコルに基づく薬物治療管理 (PBPM)

橋田 亨 101

1 プロトコルに基づく薬物治療管理 (PBPM)		2.7 プロトコルの改訂	104
導入の経緯	101	3 PBPM の実践例	104
2 PBPM 導入の流れ	102	3.1 課題の抽出	104
2.1 課題の抽出	102	3.2 プロトコルの作成	104
2.2 プロトコルの作成	102	3.3 薬剤師が実施する業務内容とその範囲	105
2.3 プロトコル合意・承認と周知	102	3.4 医療スタッフの視点	105
2.4 担当する薬剤師および医療スタッフの資格		3.5 治療上のアウトカム	105
の確認	102	3.6 課題と注意点	106
2.5 PBPM の実施	104	4 まとめ	107
2.6 PBPM 実施による評価	104		

2 病院と地域の医療連携

賀勢泰子 108

1 社会的背景	108	2.3 シームレスな医療・介護サービスの継続,	
2 地域医療連携のあゆみ	109	在宅療養への移行を強化	110
2.1 クリティカルパスと診療の標準化	109	2.4 地域医療連携と病棟薬剤業務	111
2.2 院内クリティカルパスから地域連携クリテ		3 病院から在宅へ：退院調整とお薬手帳などの	
ィカルパスへ	109	活用による地域連携	112

4 シームレスな地域連携医療体制整備における 課題	112
------------------------------	-----

第4章 地域医療・在宅医療と薬剤師の役割

① 在宅医療・介護

1-1 在宅医療の目指すもの：健康観と命の質	太田秀樹 116
------------------------	----------

1 健康観のゆらぎ	116	2 医療のパラダイムシフト	117
1.1 医療に期待するもの：健康観の変化	116	2.1 科学としての医学	117
1.2 加齢の影響	117	2.2 生き様を支える医療	118
1.3 超高齢社会を迎えた日本の健康観：死生観 を背景に	117	3 在宅医療とは	118
		4 在宅医療の目指すもの	120

1-2 在宅医療・介護の目的と仕組み	山浦克典 121
--------------------	----------

1 在宅医療・介護の目的	121	3.2 認知症高齢者の増加	125
1.1 高齢化の進展，少子化の影響	121	3.3 在宅医療に従事する薬剤師の人材育成	126
1.2 在宅医療・介護にかかわる背景	121	3.4 多職種連携と薬剤師の業務範囲の拡大	126
2 在宅医療・介護の仕組み	122		
3 在宅医療・介護の課題と展望	123		
3.1 介護保険の財源確保と効率化	123		

1-3 地域の医療・介護サービスと提供機関	川添哲嗣 128
-----------------------	----------

1 地域包括ケアシステムとは	128	2.3 薬剤師と居宅介護支援事業者，通所 介護（デイサービス）や通所リハビリ テーション（デイケア）との連携	130
2 地域の医療・介護サービスと提供機関（事業者）	128	2.4 入所型サービス	131
2.1 ケアプラン作成機関	130	3 まとめ	132
2.2 通所型サービス	130		

1-4 在宅医療・介護を受ける患者の特徴	高瀬義昌 133
----------------------	----------

1 在宅医療の適応となる人	133	2.5 慢性呼吸不全	138
1.1 在宅医療の開始	133	2.6 慢性心不全	138
2 在宅医療の主な対象疾患	134	2.7 合併症を伴う糖尿病	138
2.1 認知症	134	3 課題と展望	139
2.2 脳梗塞後遺症	136	3.1 チーム・モニタリングを目指す	139
2.3 悪性腫瘍末期	137	3.2 処方薬の適正化が必要	139
2.4 神経難病	137		

1-5 在宅医療・介護における薬剤師の役割

大澤光司 142

- | | | | |
|--------------------------------------|-----|----------------------------------|-----|
| 1 薬剤師が在宅医療にかかわる必要性 …………… | 142 | 指導開始に至る4つのパターン …………… | 146 |
| 2 多職種と薬剤師が連携する意義 …………… | 143 | 2.4 薬剤師による体調チェックの視点 …………… | 148 |
| 2.1 高齢者の服薬に関する問題点への関与 …………… | 143 | 3 薬剤師が行う服薬支援 …………… | 149 |
| 2.2 在宅における薬剤師の業務 …………… | 145 | 3.1 高齢者の薬物治療の特徴 …………… | 149 |
| 2.3 在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理 …………… | 145 | 3.2 服薬支援の内容 …………… | 149 |
| | | 4 おわりに …………… | 150 |

2 在宅医療・介護にかかわる薬剤師に必要な知識とスキル**2-1 在宅医療に必要なコミュニケーション・スキルとプライバシーへの配慮**

野呂瀬崇彦 151

- | | | | |
|------------------------------------|-----|--------------------------------------|-----|
| 1 在宅医療におけるコミュニケーション …………… | 151 | 3 在宅医療におけるコミュニケーション・スキル …………… | 153 |
| 1.1 薬剤師が患者に会う目的 …………… | 151 | 3.1 了解を得て物事を始める …………… | 153 |
| 1.2 患者の全体像の理解に努める …………… | 151 | 3.2 質問の意図をあらかじめ伝える …………… | 154 |
| 2 コミュニケーションをとるうえでの心構え …………… | 152 | 3.3 こまめに理解度を確認する …………… | 154 |
| 2.1 身だしなみ、言葉遣い …………… | 152 | 4 まとめ …………… | 154 |
| 2.2 異文化コミュニケーションを意識する …………… | 153 | | |

2-2 在宅患者・高齢者のフィジカルアセスメント

亀井大輔, 木内祐二 156

- | | | | |
|--|-----|---------------------------|-----|
| 1 フィジカルアセスメントとは …………… | 156 | 4.1 脈拍の測定 …………… | 157 |
| 2 薬局薬剤師の役割とフィジカルアセスメントの意義 …………… | 156 | 4.2 血圧の測定 …………… | 158 |
| 3 フィジカルアセスメント実施後の評価 …………… | 157 | 4.3 呼吸音の聴診 …………… | 161 |
| 4 フィジカルアセスメントの実際 …………… | 157 | 4.4 心音の聴診 …………… | 163 |
| | | 4.5 浮腫の視診・触診 …………… | 164 |

2-3 認知症患者への対応

杉山孝博 165

- | | | | |
|--------------------------------------|-----|--|-----|
| 1 認知症とは …………… | 165 | 2.3 在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導 …………… | 167 |
| 1.1 認知症の症状、原因 …………… | 165 | 2.4 まちかど介護相談薬局 …………… | 167 |
| 1.2 認知症の出現率、動向 …………… | 166 | 3 服薬管理に関する薬剤師の役割 …………… | 167 |
| 2 認知症患者とのかかわりにおける薬剤師の役割 …………… | 166 | 3.1 服薬管理において問題となること …………… | 167 |
| 2.1 認知症の薬物治療に関すること …………… | 166 | 3.2 服薬管理における工夫 …………… | 168 |
| 2.2 服薬管理に関すること …………… | 167 | | |

2-4 終末期患者への対応

巒 基治 173

- | | | | |
|-----------------------------|-----|------------------------------|-----|
| 1 終末期の定義 …………… | 173 | 4 終末期における身体機能低下 …………… | 174 |
| 2 終末期医療をとりまく背景 …………… | 173 | 5 看取りとは …………… | 175 |
| 3 患者の多様性を理解する …………… | 174 | 6 終末期の薬物治療 …………… | 175 |

6.1 終末期にみられる症状, 状態の変化	175	7.1 リビングウィル	177
6.2 終末期における薬物治療の注意点	177	7.2 アドバンス・ケア・プランニング	178
7 終末期の意思決定支援	177	8 終末期患者が抱える根源的な苦痛	178

2-5 嚥下障害患者への対応

野原幹司 180

1 超高齢社会の嚥下障害	180	3.2 嚥下の5期およびその障害	182
1.1 「改善する」嚥下リハから「支える」嚥下リハへ	180	4 誤嚥と誤嚥性肺炎	184
1.2 在宅における嚥下障害の現状	181	4.1 誤嚥とは	184
2 薬剤師と嚥下障害	181	4.2 誤嚥性肺炎発症のバランス	184
3 嚥下障害の概要	182	4.3 侵襲の軽減	185
3.1 嚥下障害とは	182	4.4 抵抗の向上	186
		5 薬剤師が行う嚥下リハ	187

2-6 褥瘡への対応

水野正子 188

1 在宅での褥瘡患者のとりえ方	188	4.3 生活機能レベル：参加	195
2 在宅の基本になるICFの考え方	189	4.4 背景因子：環境因子	195
3 褥瘡患者をICFでアセスメントする	190	4.5 背景因子：個人因子	195
4 在宅褥瘡患者への薬剤師の関与	190	5 在宅での多職種連携	196
4.1 生活機能レベル：心身機能・構造	190	5.1 連携とは	196
4.2 生活機能レベル：活動	192	5.2 褥瘡治療・ケアにおける多職種連携	196

2-7 在宅患者の感染予防

岡崎理絵 199

1 在宅患者の感染対策がなぜ必要か	199	3.1 在宅医療の現場における感染対策の流れ	202
2 感染対策の基本的な考え方	199	3.2 診療所内での取り組み	202
2.1 標準予防策（スタンダードプリコーション）	200	4 医療従事者の感染対策	202
2.2 感染経路別予防策	201	5 感染制御のための患者, 家族および介護者での知識の共有	205
3 在宅医療での感染対策の実際	202		

2-8 在宅患者の栄養管理

海老原 毅 206

1 在宅での栄養管理と薬剤師のかかわり	206	2.2 在宅での中心静脈栄養法	210
2 栄養法の選択基準	207	3 必要栄養量の算出	213
2.1 在宅での経腸栄養法	207	4 今後の課題	214

2-9 簡易懸濁法

倉田なおみ 216

1 経腸栄養における薬剤投与上の問題点	216	1.3 水剤の問題点	216
1.1 薬剤によるチューブ閉塞の問題点	216	1.4 散剤, 細粒剤, 顆粒剤の問題点	218
1.2 “錠剤をつぶす”問題点	216		

2 錠剤粉碎やカプセル開封をしないで 経管投与する方法：簡易懸濁法……………	218	2.4 55℃の温湯の作り方……………	219
2.1 簡易懸濁法とは……………	218	2.5 最長10分間の放置時間について……………	220
2.2 錠剤表面のコーティングに亀裂を入れる錠 剤の場合……………	219	3 簡易懸濁法を行うための資料：内服薬経管投与 ハンドブック……………	220
2.3 水温を約55℃にする理由……………	219	4 簡易懸濁法のメリット……………	220
		5 簡易懸濁法の全国普及率……………	222

2-10 医療材料・衛生材料、介護用品、医療機器 萩田均司 223

1 はじめに……………	223	5 在宅で用いる主な医療材料・医療機器の 取り扱い……………	228
2 医療材料・衛生材料……………	223	5.1 在宅酸素療法……………	228
2.1 医療材料・衛生材料の請求方法……………	225	5.2 TPNまたはHPN……………	228
3 介護法品（福祉用具）……………	227	5.3 ストーマ……………	230
3.1 介護保険での福祉用具購入費の支給として ……………	227	5.4 尿道留置カテーテル……………	231
3.2 レンタル：福祉用具の貸与……………	227	5.5 ネブライザー……………	232
3.3 利用者が全額負担で購入……………	227	5.6 吸引器……………	233
4 医療機器……………	227		

2-11 残薬確認 高橋 寛 234

1 はじめに……………	234	5 薬局で服薬状況を確認していくことが大切 ……………	238
2 残薬とは何か……………	234	5.1 残薬のチェックの継続……………	238
3 なぜ残薬は問題なのか……………	234	5.2 診療報酬上の評価……………	239
4 残薬が起こる原因と対処方法……………	237	5.3 薬局での取り組み……………	239
4.1 残薬確認後の対処方法……………	237	6 かかりつけ薬剤師の役割……………	240
4.2 嚥下機能が原因の場合……………	238	7 おわりに……………	240

2-12 廃棄物処理 串田一樹 242

1 在宅医療廃棄物の処理の必要性……………	242	3.1 在宅医療廃棄物の処理……………	244
2 廃棄物の処理に関する法律……………	242	3.2 薬局の在宅医療廃棄物へのかかわり……………	244
3 在宅医療の実際：在宅医療廃棄物の取り扱い ……………	243	4 これからの在宅医療廃棄物……………	245

3 地域保健における薬剤師の役割

3-1 健康サポート薬局 高橋 寛 246

1 はじめに……………	246	2.2 医薬分業と薬局のあり方……………	247
2 かかりつけ薬剤師・薬局とは……………	246	3 健康サポート薬局とは……………	248
2.1 かかりつけ薬局に求められる機能……………	246	4 薬剤師の役割が変わる……………	249

3-2 学校薬剤師

加藤哲太 251

- 1 学校薬剤師の歴史 251
- 2 学校薬剤師の役割 252
- 3 展望：今後の活動 253

- 3.1 環境衛生の維持管理 253
- 3.2 保健指導 254
- 3.3 顔が見える薬剤師 254

3-3 アンチ・ドーピング

笠師久美子 256

- 1 ドーピングとアンチ・ドーピング活動の歴史 256
 - 1.1 ドーピングの起源 256
 - 1.2 世界アンチ・ドーピング規程 (Code) の規則違反 257
- 2 スポーツと医療 257
- 3 禁止表国際基準 258

- 3.1 禁止される物質と方法 258
- 3.2 治療使用特例 (TUE)：喘息治療薬を例に 259
- 4 アンチ・ドーピング活動における薬剤師の役割 262
 - 4.1 公認スポーツファーマシスト認定制度 262

3-4 薬物乱用

加藤哲太 264

- 1 薬物乱用とは 264
 - 1.1 乱用薬物の種類 264
 - 1.2 薬物の影響 264
- 2 薬物乱用の現状 266

- 3 危険ドラッグと医薬品医療機器等法 267
- 4 薬物乱用防止と薬剤師のかかわり 267
 - 4.1 青少年の薬物乱用防止教育 267
 - 4.2 医薬品の乱用防止 268

3-5 自殺予防

向井 勉 270

- 1 日本の自殺問題 270
- 2 自殺に関する正しい知識 270
 - 2.1 誤解されている俗説 270
 - 2.2 自殺念慮者の心理 271
- 3 過量服薬問題と薬剤師 272
- 4 薬剤師による自殺予防の実際 272

- 4.1 自殺のサイン 272
- 4.2 自殺のリスクアセスメント 273
- 4.3 安全確保 273
- 4.4 フォローアップ：専門機関へつなぐ 273
- 5 薬剤師のこれからの役割 274

3-6 公衆衛生・感染予防

池谷 修 275

- 1 はじめに：公衆衛生の意義 275
- 2 感染予防のためのワクチン接種 275
- 3 個々人が日常に行う感染予防策 276
- 4 感染拡大防止のための活動制限 278

- 5 地域医療における薬剤耐性菌の問題 278
- 6 耐性菌の地域内集団感染の事例 280
- 7 全国の薬局を対象とした薬剤の疫学調査 280

3-7 検体測定室

岡崎光洋 281

- 1 検体測定事業の意義とガイドライン策定の経緯 281

- 1.1 検体測定室運用にかかわる検体測定室 GL の要点 282

- 1.2 検体測定事業にかかわるガイドラインおよび関連通知など 284
- 2 薬局および薬剤師のかかわり 284
- 3 課題と展望 286

4 災害時の薬剤師の役割

西澤健司 288

- 1 災害時の医療の特徴と対応 288
- 1.1 超急性期（発災後 6～72 時間） 290
- 1.2 急性期（発災後 72 時間～約 1 週間）～亜急性期（発災後約 1 週間～約 1 か月） 291
- 1.3 慢性期（発災後約 1 か月～約 3 か月） 291
- 2 災害時に薬剤師に必要な知識 292

5 国際貢献（海外支援）における薬剤師の役割

小林映子 294

- 1 国際貢献における医療支援の鉄則：薬と薬剤師の文化を尊重する 294
- 1.1 国際標準 295
- 1.2 必須医薬品 295
- 1.3 医薬品の品質保証 296
- 2 緊急時における医薬品供給の現状と WHO 戦略 297
- 2.1 WHO 医薬品寄付ガイドライン 2010 年版 297
- 2.2 国際標準の緊急用基礎保健医療キット 298
- 2.3 規制薬物への対応 300
- 2.4 被災地での医療物資の管理 301
- 3 メディカル・ロジスティクスと薬剤師の役割：課題と展望 301

確認問題

望月真弓（問 1～4，問 6～12），古田勝経（問 5） 304

付録 | 褥瘡治療に用いる外用剤の軟膏基剤

古田勝経 310

- 索引 312

おことわり

- 本書では「医薬品，医療機器等の品質，有効性及び安全性の確保等に関する法律」はすべて「医薬品医療機器等法」と表記している。